

35. 小谷城清水谷 発掘調査概報

滋賀県東浅井郡湖北町郡上に位置する小谷山清水谷に、農業用水の水路が敷設されることになり、路線部分にあたる幅3m、長さ150mについて、昭和53年7月末より8月にかけて調査を実施した。

小谷城は、中世戦国時代の下克上の動乱期・大永四年(1524)浅井亮政によって築城され、久政・長政の3代にわたり、湖北に覇を唱えた拠点となった。しかし、元亀元年(1570)浅井・朝倉連合軍と織田・徳川連合軍との間に起った姉川の合戦により浅井・朝倉連合軍は敗れ、浅井長政は小谷城に立てこもった。その3年後、天正元年(1573)ついに織田信長の攻撃により小谷城は落城し、浅井長政は自刃した。

小谷城跡については、昭和45年より6ヶ年間にわたり、主要部分について環境整備事業が実施され、本丸跡、大広間跡、桜馬場下段、本丸下帯郭等の遺構が確認された。それによると、礎石は1.91mの間隔でならべられていた。建物跡等からは1片の瓦も出土せず、杉皮・檜皮もしくは板葺であったろうと推定されな。出土品には、宋・明銭、土師器皿、円鏡、大太刀用切羽、石臼、硯、陶磁器類などが出土し、小谷城の主要部分の建物の位置・形状等がほぼ明らかにされ、この部分のみが史跡指定になっている。

今回調査を実施した清水谷は、この馬蹄形に連なる小谷山の中央部に位置し、三方は山に囲まれ南側を開いた谷である。ここにわずかな平坦地を形成しており、現在この地の所々に土壇や土塁状盛り上りを多く観察することができ、小谷城の館がいとなまれていた



ことを物語っている。清水谷は名のごとく常に清水がこんこんと湧き出ており、居住に適していたといえよう。反面、この湧水も時には氾濫をおこしたとみえ、調査の結果氾濫による堆積層を確認した。館等はこの堆積層の上に構築され、その後も氾濫に遇っている。

遺構

御屋敷跡といわれるところより南195mにある工事用杭P1を0点とし、南北に縦貫する林道にそってトレンチを設定したのであるが、当該地付近は昭和49年の高時幹線工事の排土場として利用されて旧地形を保っておらず、まず旧地形復元作業より始めた。その結果、地形は、旧形をとどめないところが数か所認められた。

その中において新しく発見された遺構は、整地層1か所、焼土8か所、溝4条等である。

〈整地層〉P1より57m~68mの11mの間に、やや粘性をおびた暗黄褐色細砂層を検出した。表面は平坦



小谷山全景(南から)



調査前の状況(南から)

に近く、固くたたきしめられた状態で、他の砂礫層と際立った違いを認めることができ、この層より焼土や炭化物、土師器、陶磁器等を検出したことから整地層と判断した。整地層は東側に礫を少し含み南側へゆるやかに傾斜し、一たん溝(SD2)によって切られ、また0.3mつづき、その先は氾濫により大きく削られている。さらに中央付近も溝(SD1)によって切断されている。この整地層は、暗褐色砂礫層の上に厚さ0.5mの暗褐色粘質土を敷き整地している。この暗褐色粘質土層からは、青銅製品、土師器皿、陶器片などが出土した。

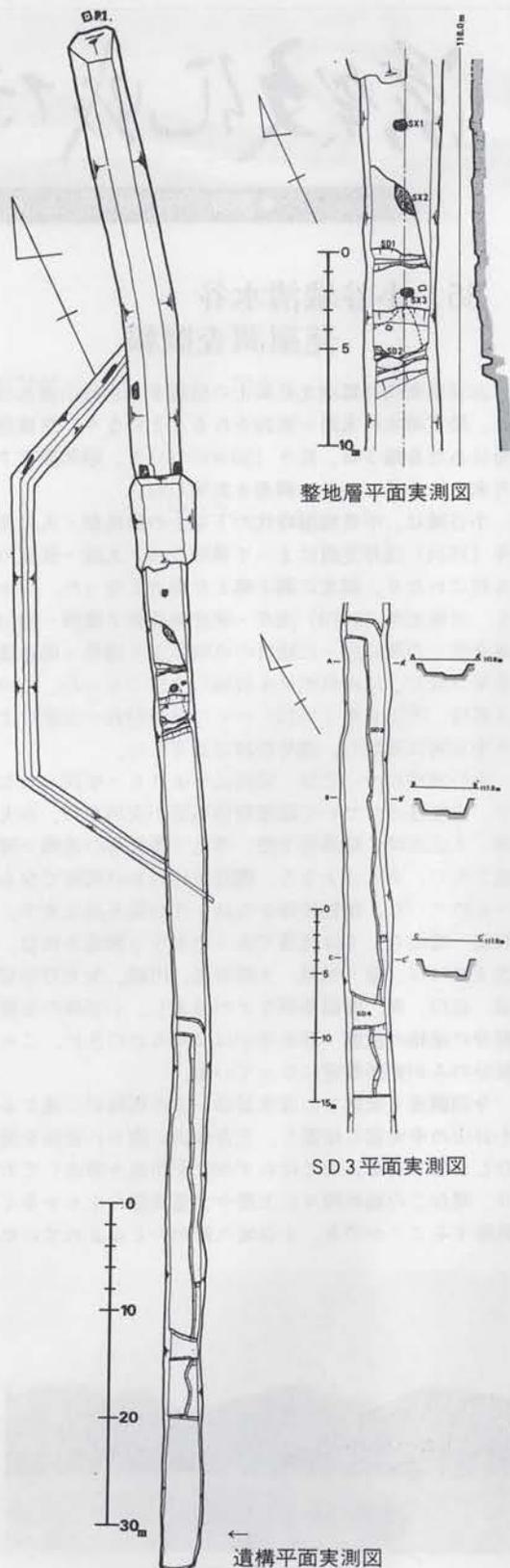
〈焼土SX1~3〉P1より南53mにSX1、その南4mにSX2、その南4.5mにSX3がある。このうちSX2とSX3が整地層内にある。SX1は0.6m×0.7mの大ききで砂礫内にあり、中央部分が黄色の固いかたまりでその周囲は淡赤褐色を呈する。SX2は楕円形を呈し1.9m×0.8mを測り、北半が整地層内にある。北側3分の1は黄色で、その他は淡赤褐色を呈する。焼土層の厚さは10cmほどで、下部は礫が多い。SX3は整地層内にあり0.5m×0.7mを測り、全体黄色を呈しよく焼けている。その南側に赤褐色焼土片の拡がりを見る。焼土の厚さは10cmを測り、円形に近い。南側へ拡がる赤褐色焼土片には、炭、灰、黄色焼土片、土師器皿、陶磁器が含まれており、この拡がりにはSD2までみる事ができる。北側へは焼土の拡がりを見ない。

〈焼土SX4~8〉P1より南35m付近にSX4・5・6が、43m付近にSX7・8がある。ともに以前の水路工事等により攪乱をうけ断面にのみ認められた。焼土の厚さはともに約10cmを測り、標高118mと同じくするところから、一連のものと思われる。焼土は赤褐色を呈し、中に炭化物が含まれ固くしまっていた。SX7より古銭1個が出土した。確認できた焼土の拡がりには150mを測る。

〈SD1〉整地層のほぼ中央を東西に延びる溝である。肩部の広いU字形を呈し幅0.6m~1.0m、深さ0.3mを測る。溝は整地層を切り込んでおり、底部及び肩部に炭化物の混入した層が堆積していた。主に小礫、細砂の埋土層である。

〈SD2〉整地層の南側を東西に延びる溝である。底部は平坦、側壁は垂直か少しオーバーハンクしている。幅0.6m、深さ0.5mを測る。主に淡褐色砂礫層及び砂層が堆積し、特に子供の頭大の礫が多い。溝内からは陶器片が出土した。人工的な溝、すなわち暗渠の可能性が高い。

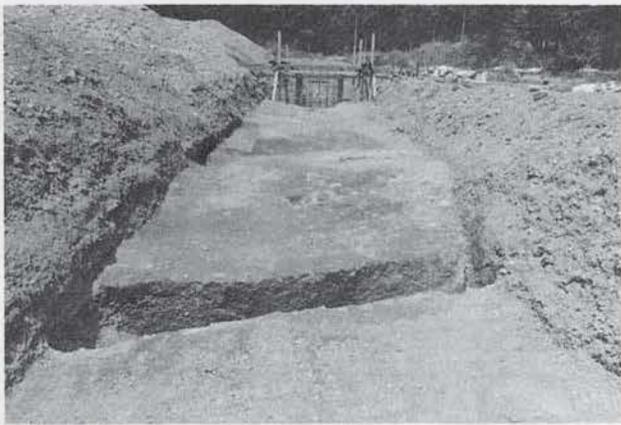
〈SD3〉P1より南94m~131mにある溝で、94m部分では東西にのび、ほぼ90度屈曲し南下する。幅1.6m、深さ0.2~0.4mと浅い。この溝は、褐色砂礫層を切り込んでおり、溝内から多数の陶器片の出土を



整地層平面実測図

SD3平面実測図

遺構平面実測図



整地層（南から、手前の溝がSD2）



SD3（北から）→

みた。溝の南限については、SD4や後世の攪乱のため消滅し確認することはできなかった。

〈SD4〉P1より南123m地点においてSD3を東西に切断し、旧表土直下において、埋土に粘質土層、腐植土層がみられ、現在も湧水が流れている。新しい溝である。

遺物

本調査において整地層、焼土、溝、氾濫跡より、青銅製品、古銭、土師器、陶磁器等が出土した。瓦類の出土は皆無であった。

〈陶器〉壺・甕・鉢・播鉢類の破片が多数出土した。これらは越前窯、瀬戸窯あるいは、信楽窯の製品と考えられるものもある。細片のため全体の器形を把握することはできないが、総体的に焼成は良く赤褐色に焼きしまっている。播鉢の中には須恵質で灰色のものや、赤褐色の焼きの甘いものがある。播り目は4条のものと7条のものがある。出土した陶器は全体に厚い作りである。

〈磁器〉碗・皿の細片が出土した。これらは中国製品と思われ、青磁には碗の外面に鏤文を釉下に施し、見込みに草花様の文様の一部をみる(1)。また、暗緑色の青磁釉を施すものもある(2)。染付の茶碗の細片も数点出土した。その他、天目茶碗片が2片出土した。美濃窯の製品と思われる。

〈土師器〉すべてが皿片で、整地層内から出土した。完形品はなく細片が50数片出土した。口径は8~13cmを測り、口縁部内外面をなでるものや、内面のみをなでるものがある。明褐色を呈する。油や灯の芯のような痕跡は認められなかった。(3~5)

〈青銅製品〉鉢(坏か、7)と装飾品の一部と思われるもの(6)と不明片2点とが出土した。鉢は金銅製

品で部分的に金メッキを残す。口径は8.4cm、器高は3.4cmを測り、断面台形の高台が付く。高台は体部と別々に作られ、体部内面中央に接続のための頭の丸い幅2.2cmのものがあり、頭には頂部より17条の波状文が裾広がりにはり施されている。口縁部は丸味をもちながら端部にいたり立ち上る。底部より口縁端部まで5方へ鏤文状の文様が施され輪花状になる。このことから内面中央の頭の丸いものは蕊ではないかと思われる。もう1つの青銅製品は、器高3.2cm、最大幅2cmを測り、上部につり下げるための小穴が穿たれている。下部は14条の鋸歯状の文様が施されている。

〈古銭〉古銭はP1より南50m~70mの間において散発的に4個が出土した。そのうち、判読可能なものは1個で北宋の「皇宋通宝」である。他は判読至難な「元□□宝」や、腐食や摩滅で判読できないものである。なお、環境整備事業時において「開元通宝」「景元徳宝」「皇宋通宝」「嘉祐通宝」「治平元宝」「元豊通宝」「洪武通宝」「永樂通宝」等が出土している。

〈石製品〉皿か盤の破片で、立ち上りは0.7cmを測り、内面は平滑でていねいに調整されている。黒い炭化物状のものが薄く附着する。砂岩質で淡褐灰色を呈する。

まとめ

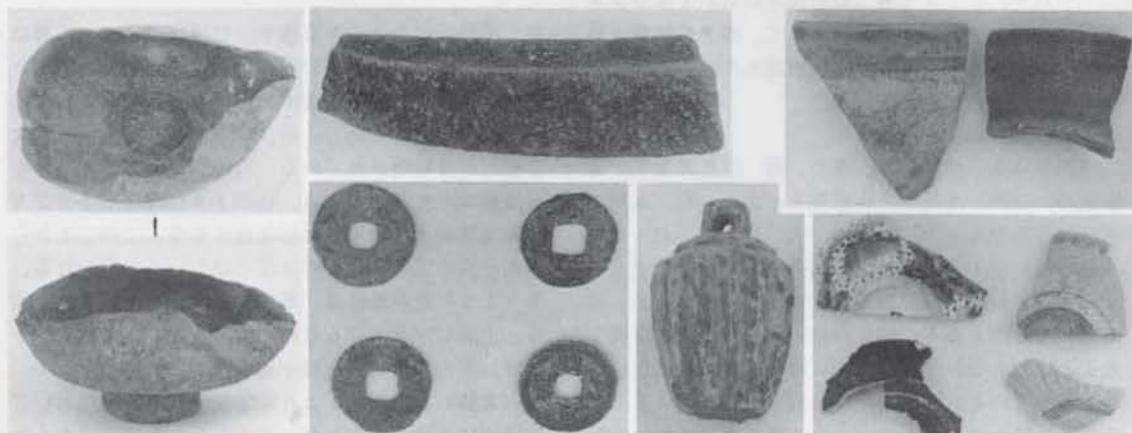
今回の調査においては、トレンチ調査のため面的な遺構検出はできず、しかも後世の攪乱、氾濫等のため遺構の残存状況は非常に悪く、遺存する遺構においても不明なものが多かった。ただ、SD3については、溝が谷にほぼ平行するようのびさらに直角に屈曲す

るところから、人工的な溝と考えられる。昭和13年刊『滋賀県史蹟調査報告』等7冊の実測図と照合してみると、同位置に建物をとりまく土塁と溝状の構造物が図示されている。また、溝内から多数の陶器片が出土することから、この溝を建物をとりまく空壕とみてよい。建物は、調査地のすぐ西側にあると推定される。整地層については、大半が氾濫のため削平されているため規模を確認することはできなかったが、表面が固

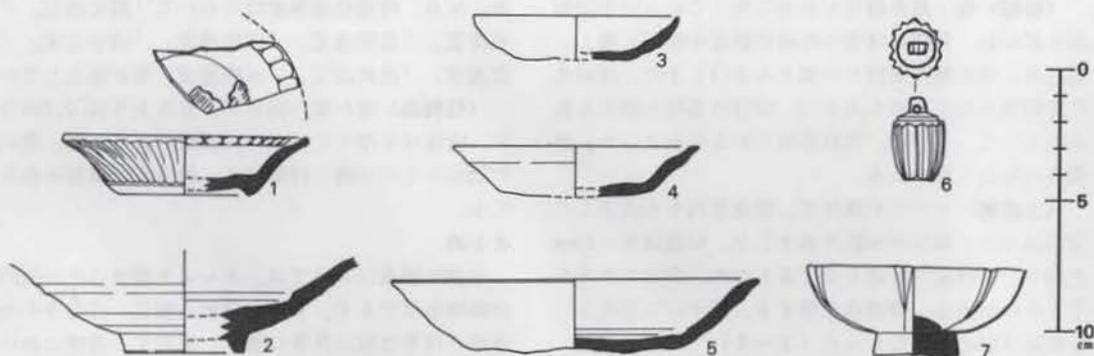
くたたきしめられ焼土（S×3、炉か）の存在から土間状なものと思われる。遺物については、大半が細片のため詳細な観察は困難ではあったが、室町時代後期の様相を呈している。また、他の時代の遺物の出土をみないところから、本調査において検出した遺構は、戦国時代浅井氏同族の所産としてよいであろう。しかし、今回の調査では、館の規模、名称等を知る資料の検出はできなかった。（葛野泰樹）



清水谷御屋敷跡実測図（昭和13年刊『滋賀県史蹟調査報告』第7冊より）



小谷城清水谷出土遺物



小谷城清水谷出土遺物実測図（1・2磁器、3～5土師器、6・7青銅製品）